

かせやまの森を 守り育てる



自然共生サイトとして、生物多様性の保全を大事にして適正な活用を行います。行政、地域住民、活動団体、専門家で協議を行い、保全と活用のルールを決め、善意ある人々の参加を求めます。

参加のスタイル

- スタッフになって一緒に森を守り育てる
- 情報会員になって事業やイベントの情報を受け取る
- 提携団体となって一緒に森を守り育てる
- 支援者、支援団体となって一緒に森を守り育てる（年間一口10万円）

かせやまの森は一般的な公園ではありません。地域住民や活動団体が自主的に守っている里山です。無制限な立ち入りやルール無視の行為はできません。活動団体が主催する事業にご参加ください。

木津川市のサイト（保全活動計画）

<https://www.city.kizugawa.lg.jp/index.cfm/10,11003,47,html>

「みもろつく鹿背山再生プラン」で検索

提携団体

鹿背山竹ネット〈連絡先：090-8447-6085（筒井）〉

山城ごはん〈連絡先：090-4291-5720（堤）〉

京都大学・森里海と文化研究会

子育てわくわくプロジェクト

かせやまの森創造社

メール：kaseyama.sozo01@gmail.com

Facebook：<https://www.facebook.com/kaseyama.sozo/>

ホームページ：<https://www.kaseyama-sozo.com/>



聖地・みもろつくかせやま

万葉集には鹿背山をうたった和歌があります。「みもろつく」は鹿背山の枕詞です。

「ミモロ」は神の降り来臨する場所。神を斎（いつ）き祀（まつ）る樹叢（じゅそう＝森）で、尊敬を表す「ミ」と「モリ（森）」の組合せで大切なモリ、尊いモリを表すそうです。「みもろつく鹿背山」は尊い森（ミモロ）のある鹿背山、となります。（「日本人にとって聖なるものとは何か」上野誠、中公新書より）

かせやまの森創造社2024年度事業は、京都府地域交流プロジェクト譲渡金の支援で実施しました。

NEWS LETTER



かせやまの森創造社



かせやまの森から

かせやまの森が「自然共生サイト」に認定されました

かせやまの森の特徴

かせやまの森は京都府木津川市鹿背山にある面積148ヘクタールの広大な里山で、ほぼ半分が市有地です。ニュータウンに囲まれた都市型の里山とすることができ、農村部と都市部の市民が協力し複数の活動団体をつくって保全活動を行っています。

木津川市は、かせやまの森を生物多様性の保全を進めていく地区として位置付け、学識者や活動団体と「生物多様性木津川市地域連携保全活動計画」を策定し保全活動を実施してきました。森には多種多様な動植物が生息しています。活動団体は年2、3回の回遊路整備をはじめ、活動エリアごとにユニークな保全・活用をしています。この実績が評価され「自然共生サイト」に認定されました。

2025年3月号

発行：かせやまの森創造社



自然共生サイトとは

「自然共生サイト」とは、「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を国が認定する区域のことです。認定区域は、「OECM※」として国際データベースに登録されます。

企業の森、ナショナルトラスト、バードサンクチュアリ、ビオトープ、自然観察の森、里地里山、森林施業地、水源の森、社寺林、屋敷林、緑道、都市内の緑地など、全国328箇所が認定されています（2025年3月）。自然共生サイトを認定することで、日本の「30by30目標」が達成されます。

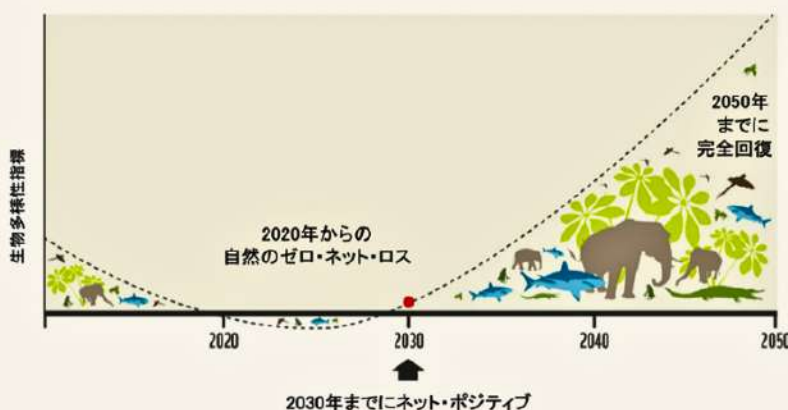
※OECMとは、Other effective area-based conservation measuresの頭文字をとったもので、国立公園等の保護区ではないものの、生物多様性を効果的に保全しうる地域のことをいいます。具体的には里地里山、水源の森、都市の自然等がこれにあたります。



「30by30（サーティ・バイ・サーティ）目標」とは

「30by30（サーティ・バイ・サーティ）目標」とは、2030年までに、陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標です。2022年12月、生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）で採択された「昆明・モントリオール生物多様性枠組」では、グローバルターゲットの1つに盛り込まれ、2030年は積極的な取り組み（ネイチャーポジティブ）により生物多様性が回復する転換点とされます。

自然のための世界目標：2030年までのネイチャーポジティブ



かせやまの森で
こんなことをやってます



食と農のイベントと 場づくり

提携団体の「山城ごはん」は月1回のイベントで菜園づくり、収穫・野外料理、勉強会などを開催しています。創造社はテーブル・ベンチ・日よけ・PIZZA窯などイベントにふさわしい場づくりを行っています。

小学校との交流

城山台小学校に協力して、里山で竹切り体験、竹を使っの校庭の階段やベンチづくり（指導）、里山の植物や土でのビオトープ池づくりなどを行い、里山の自然と資源活用を子どもたちに伝えています。

高校生・大学生の 里山体験

府立本津高校と連携して、学生の山歩き・自然観察、メンマプロジェクト（食品づくり）に協力しています。また、京都大学フィールド科学教育研究センターと連携し里山の土壌調査、里山里海フェスへの出展を行っています。また、京都大学・森里海と文化研究会のみなさんは里山作業や自然観察にやっています。

広大な里山を守る

台風の後では、山道が崩れたり倒木でふさがったりします。見回りで被害を把握し市と復旧計画を協議します。また、季節ごとの自然の変化や生きものの生息状態を見回ります。

カエルの池づくり

使われなくなった棚田は土で埋まり、草むらになります。カエルやトンボ（ヤゴ）の居場所や産卵場所が無くなります。小さくても水のたまる池を作るといろんなカエルやトンボが交代でやってきて産卵します。また、土に埋まった昔の種が芽吹いて水生植物がよみがえります。

川遊び川そうじ

夏は猛暑が続く中、涼しい水辺でまったりと川遊びや川そうじをします。

子育てグループの 活動支援

地元の子育てグループ「子育てわくわくプロジェクト」が提携団体となって、散策やリースづくりやお食事会をします。

保全活動計画をたて 実行する

市、複数の活動団体、学識者で保全活動の10年計画を立てました。計画を実行するために整備や維持管理を行い、整備や復旧の工事を市に提言しています。



里山回遊路と 里庭づくり

永年放置された山道は樹木や草に覆われて人が入れなくなっていました。10数年間の作業の結果、道がつながり、特徴ある巨石やヤマザクラの巨木や眺めのいいポイントが現れました。それらを「里庭」と名付けて回遊路整備や景観整備を行っています。

竹林の手入れ、タケノ コ掘り、メンマクラブ

提携団体・鹿背山竹ネットが竹林や散策路を整備して、春のタケノコ取りや竹のクラフトづくりを行っています。竹林は勢いがあり雑木林を駆逐するので、間伐して適正に管理しなければなりません。若竹からメンマをつくるプロジェクトも始まりました。

生きものの谷

広大な棚田跡が湿地となり生きものの生息場所となっています。ここを「生きものの谷」と名付けて見守ります。市と連携して、茂りすぎたササの藪や陸化（乾燥化）の原因となる樹木の伐採をします

自然観察・モニタリング 環境班が季節ごとに動植物の調査をして 報告書を作成しています。

森の落葉・土壌菌を 活かした畑づくり

森の落葉や腐葉土をかき出して、畑にまきます。土壌菌を活かした元気のある野菜を作ります。

